



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.1496 2026年5月11日

5月15日～6月15日は「情報通信月間」です

2026年度の情報通信月間は、「AIで広げる暮らし 愛ある社会」をテーマに、情報通信の普及・振興を図ることを目的として実施されます。ARIBは、情報通信月間行事として「電波の日記念講演会（6月4日）」（Webにて5月11日から申込受付開始予定）、「周波数資源開発シンポジウム2026（7月9日）」を開催します。

ARIBからのお知らせ

情報通信月間「電波の日記念講演会」開催のお知らせ

一般社団法人電波産業会では、情報通信月間推進協議会のご協賛、総務省のご後援（予定）のもと、6月1日の電波の日を記念した情報通信月間参加行事として「電波の日記念講演会」を下記のとおり開催いたします。

講演会では、総務省及び業界を代表する有識者の皆様を講師にお迎えして、「電波利用の現状と今後の展望」をテーマにそれぞれのお立場でご講演いただきます。

ぜひ皆様お誘いあわせのうえご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

- 1 日 時：2025年6月4日（木） 13：30～16：30（開場13：00）
- 2 開催場所：明治記念館 富士[2]の間
東京都港区元赤坂2-2-23
電話：03-3403-1171
- 3 実施機関：主催 一般社団法人電波産業会
協賛 情報通信月間推進協議会
後援 総務省（予定）
- 4 講 師：

総務省	総合通信基盤局長	湯本 博信 氏
NTT 株式会社	常務執行役員 技術企画部門長 CIO Co-CAIO	海老原 孝 氏
株式会社 TVer	代表取締役社長	大場 洋士 氏
ソニー株式会社	技術開発研究所 ネットワーク&システム技術研究開発部門 DSA 事業準備室 統括部長	澤井 亮 氏
- 5 定 員：会場参加 100名
- 6 資 料：予稿集（会場参加者に配布予定）

- 7 参加費：無料（事前登録制）
- 8 申込み先：当会ホームページの講演会等開催案内よりお申込みください。
※5月11日（月）から申込み受付開始予定です。
<http://www.arib.or.jp/osirase/seminar/index.html>
- 9 問合せ先：一般社団法人電波産業会 電波の日記念講演会事務局 三木、梅崎
TEL：03-5510-8592 E-mail：denpanohi@arib.or.jp

ARIB 機関誌 No.132 発行のお知らせ

ARIB 機関誌 No.132 を 4 月 30 日に発行しました。

本号では、巻頭に「2026 年度の事業年度を迎えて」を掲載し、「ARIB 活動報告」では、2025 年 12 月から 2026 年 3 月末までの活動報告を掲載しております。

ARIB 機関誌 No.132 掲載記事

2026 年度の事業年度を迎えて 一般社団法人電波産業会 事務局長 岡野 直樹
2026 年度の事業計画及び収支予算等について

【 ARIB 活動報告 】

電波の利用に関する調査、研究及び開発

電波利用システムの調査研究

電波利用システムの研究開発

高度無線通信研究開発

電磁環境調査研究

コンサルティング及び普及啓発

標準規格の策定

委員会報告

ARIB 日誌

出版物一覧

事務局の現状

事務局だより



ARIB 機関誌電子版は、ARIB ホームページの「会員ページ」、「ARIB 機関誌」に掲載しておりますので、ご活用ください。

なお、ID・パスワードが不明の方は ARIB 会員連絡窓口までお問い合わせ下さい。

NAB Show 2026 の概要報告

1. はじめに

NAB（全米放送事業者協会）が主催する世界最大級の放送機器・メディアの祭典“NAB Show 2026”が、4月18日（土）から22日（水）まで、ラスベガス・コンベンションセンター(LVCC)で開催されました（機器展は19日（日）から）。

主催者発表によれば、登録参加者数は58,000人超、参加国は146か国、出展社数は1,100社超で、このうち米国外からの参加者は22%、初参加者は48%、初出展社は132社、報道関係者は911名でした。

今年のNAB Showでは、放送局や制作会社に加え、配信事業者、スポーツ関係者、クリエイター、企業内映像制作部門など、多様な参加者を対象に、AI、クラウド制作、IP化、リモートプロダクション、広告・収益化など、メディア産業全体の変化を示す展示・講演が行われました。



ラスベガス・コンベンションセンター(LVCC)

2. オープニングセッション

4月20日（月）10時から、LVCC ノースホールのメインステージでオープニングセッションが開催されました。

米国の長寿リアリティ番組“Survivor”の50シーズン到達を記念する内容が中心となり、同番組に対してNAB Spirit of Broadcasting Awardが授与されました。

番組ホスト兼エグゼクティブプロデューサーのJeff Probst氏は、シーズン51の制作が進むフィジーから中継で参加し、NAB会長兼CEOのCurtis LeGeyt氏と対談しました。

また、エミー賞受賞プロデューサーのJesse Collins氏も登壇し、大規模ライブ制作や視聴者体験の変化について語りました。

Curtis LeGeyt氏は、放送・メディア産業がニュース、スポーツ、エンターテインメントなどを通じて引き続き大きな社会的影響力を持つことを強調するとともに、AIや新たな制作技術、配信プラットフォームを活用しながら、次世代の視聴者との接点を広げていく重要性について述べました。

今年のオープニングセッションは、長寿番組“Survivor”を題材に、コンテンツの価値が放送、配信、SNSなど複数のプラットフォームを通じて継続的に拡大していくことを示す内容でした。

あわせて、NABからは、放送・メディア産業が技術革新を取り込みながら、新たな視聴者接点や収益機会を創出していく方向性が示されました。



オープニングセッションの様子



NAB 会長兼 CEO LeGeyt 氏

3. 展示内容

今年の展示は、NAB が示す「制作」「接続・配信」「収益化」の3領域に整理された形で行われました。

制作領域では、カメラ、編集、音声、CG、バーチャルプロダクション、制作支援 AI など、コンテンツ制作に関する展示が中心でした。接続・配信領域では、IP 制作、クラウド制作、リモートプロダクション、送信・配信インフラ、品質監視などが取り上げられました。収益化領域では、広告付き無料配信チャンネルの運営、広告挿入、視聴データ分析、権利管理、スポーツコンテンツの収益化など、マネタイズ関連の展示が見られました。

展示全体としては、AI を単体機能として紹介する段階から、制作、メタデータ付与、字幕、品質管理、広告運用、視聴分析などの業務に組み込む段階へ移っていることが印象的でした。また、クラウド化についても、すべてをクラウドに移すのではなく、オンプレミス設備、エッジ処理、クラウドサービスを組み合わせたハイブリッド構成が現実的な提案として示されていました。

主な展示としては以下のとおりです。

ソニーがカメラ、クラウド制作、ニュース制作、バーチャルプロダクションを総合的に展示し、パナソニック コネクトはリモートカメラや少人数制作向けシステムを展示していました。

国際電気は、地上デジタル放送送信設備、FM 送信設備、4K 対応カメラ、多目的ボックスカメラなどを展示し、会期中にはブラジル通信大臣の Frederico de Siqueira Filho 氏がブースを訪問して TV3.0 導入に関する意見交換が行われました。

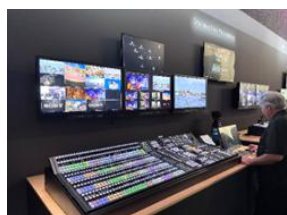
朋栄(FOR-A)は、ソフトウェア化・IP 化した統合制作システムを展示し、映像・音声信号を切り替える装置では従来型の物理操作パネルにも対応するなど、最新システムと既存運用の両立を意識した提案が見られました。

Leader は IP 制作や HDR 品質管理に対応した計測ソリューションを紹介していました。

海外企業では、Grass Valley が、従来は専用機器で構成していたスイッチング、ルーティング、リプレイ、送出などの機能をソフトウェアサービスとして柔軟に構成する制作基盤を提案していました。

Rohde & Schwarz は送信機、測定器、監視装置など放送インフラ分野を展示していました。

ATSC ブースでは、米国における ATSC 3.0 の展開状況に加え、ブラジル TV3.0 との連携や受信機関連展示が紹介されていました。



ソニー



パナソニックコネクト



国際電気



朋栄(FOR-A)



Leader



Grass Valley



ATSC

4. ブラジル SET:30 朝会合

NAB Show の期間に合わせ、ブラジル放送技術協会(SET)により、展示会開始前の朝会合“SET:30”が4月19日(日)から21日(火)まで開催されました。

初日は、SET会長の Paulo Henrique Castro 氏による開会挨拶が行われ、ブラジル放送業界が次世代放送方式 TV3.0 (DTV+) の実装段階へ進みつつあることが強調されました。

続いて、ブラジル通信大臣の Frederico de Siqueira Filho 氏が登壇し、TV3.0 を国家的なデジタル政策の一環として推進する考えを示しました。

3日間を通じて、TV3.0 の制度設計、周波数政策、受信機普及、広告・収益モデル、AI活用、放送と通信の融合サービスなど幅広い議論が行われ、ブラジルにおける次世代放送導入の具体化が進んでいることが示されました。



Frederico de Siqueira Filho 氏



Paulo Henrique Castro 氏

5. カンファレンス

NAB Show 期間中は、多数のカンファレンス、ワークショップ、ショーフロア内ステージが開催されました。

テーマは AI、クラウド、スポーツ、ストリーミング、広告、収益化など多岐にわたり、その中でも Broadcast Engineering and IT(BEIT)Conference は放送技術・IT・研究開発寄りの技術カンファレンスとして位置づけられています。

BEIT Conference では、AI の現場導入、クラウドネイティブ制作設備、IP 設備の実装課題、サイバーセキュリティ、スポーツライブ制作の高度化、放送と通信の融合サービスなどが取り上げられました。

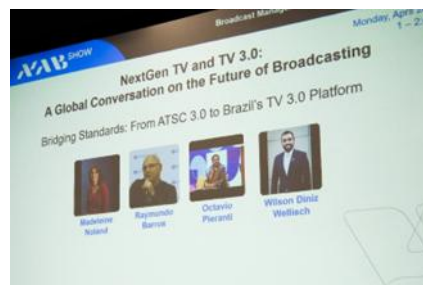
また、今年 NHK の菊地幸大氏らによる論文「Compact 8K × 8K Camera; Imaging the Immersive Era」が Best Paper Award を受賞し、日本の放送技術研究が国際的に評価された事例として注目されました。

また、次世代放送関連では、4月20日午後 “NextGen TV and TV 3.0: A Global Conversation on the Future of Broadcasting” と題する NAB 公式セッションが開催されました。

ブラジル通信大臣の Frederico de Siqueira Filho 氏、FCC 委員の Olivia Trusty 氏らが登壇し、ATSC 会長の Madeleine Noland 氏がモデレーターを務めるパネルでは、SBTVD Forum 会長の Raymundo Barros 氏らにより、ブラジル TV3.0 と ATSC 3.0 の関係、制度整備、放送と IP の融合などについて議論が行われました。



BEIT 授賞式の様子



NexGen TV and TV3.0 セッションの様子

6. まとめ

NAB Show は、単なる放送機器の展示会ではなく、制作、配信、運用、広告、収益化までを含むメディア産業全体の総合展示会として位置づけられますが、NAB Show 2026 では、その方向性がさらに明確になり、AI、クラウド、IP、リモートプロダクション、ソフトウェア化、収益化が主要な潮流として示されました。

特に、展示全体が「制作」「接続・配信」「収益化」の3領域で整理されていたことは、メディア産業の関心が、コンテンツを制作することだけでなく、それをどのように届け、運用し、事業として成立させるかまで広がっていることを示しています。

日本の放送業界においても、設備更新を個別機器の置き換えとして捉えるだけでなく、制作、送出、配信、広告、データ活用、災害対応まで含めた全体最適の視点が重要になります。

NAB Show 2026 は、放送の信頼性という従来からの強みを維持しながら、IP・クラウド・AI・収益化をどのように実装していくかが、今後の重要な課題であることを改めて示した展示会であったといえます。

FoBTV 技術委員会の概要報告

1. はじめに

FoBTV(Future of Broadcast Television)は、2011年に、当時のNHK放送技術研究所長であった久保田啓一氏がATSC会長のMark Richer氏らに働きかけて組織された国際的な連携枠組みです。

地上デジタルテレビジョン放送及び関連ネットワーク技術が急速に発展する中で、地上波放送の将来像について国際間の協力関係を構築することを目的としており、NAB Show 及びIBCの開催時期に合わせて技術委員会の会合が開催されております。

今回のFoBTV技術委員会は、NAB Show 2026期間中の2026年4月22日(水)に、ラスベガス・コンベンションセンター(LVCC)ノースホール内会議室において、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で開催されました。



FoBTV 技術委員会の様子

2. 報告内容

今回の会合には、DVB、ATSC、NAB、SET、ARIB、NHK、ETRI、NERC-DTV、5G-MAGなどの関係機関が参加し、次世代放送技術及び関連サービスの最新動向について報告が行われました。

また、各地域における次世代放送方式の実装、制度整備、受信機普及、放送とIP配信の融合、5G Broadcastとの連携などについて意見交換が行われました。

(1) DVB : DVB-I specification and market deployment update

技術部門責任者のEmily Dubs氏から、DVB-Iの最新仕様、及び各国での市場展開状況について報告がありました。

イタリア、ドイツ、フランス、スペイン、アイルランド、オーストラリア、ニュージーランド等でDVB-Iの導入や試験が進んでおり、放送とIP配信を統合する仕組みとして、サービスのプロミネンス確保やユーザー体験向上に活用されていることが紹介されました。

(2) ATSC : Latest developments in ATSC 3.0

会長のMadeleine Noland氏から、ATSC 3.0の最新標準化動向について報告がありました。

インタラクティブ広告に関する推奨実施規範、B2X、5G Broadcastとの協調、A/300の運用構成、MIMO拡張など、ATSC 3.0の機能拡張及び国際展開に関する取り組みが紹介されました。

(3) NAB : ATSC 3.0 Transition Update in the U.S.

技術担当上席副会長の Lynn Claudy 氏から、米国における NextGen TV、すなわち ATSC 3.0 への移行政策について報告がありました。

ATSC 1.0 の終了方法、ATSC 3.0 チューナー搭載義務、低価格コンバーターボックス、コンテンツ保護、MVPD による再送信ルールなどが、米国における主要な制度課題として説明されました。

(4) SET : Progress of Brazil's TV 3.0 project

会長の Paulo Henrique Castro 氏から、ブラジル TV 3.0 プロジェクトの最新状況について報告がありました。

MIMO を用いた ATSC 3.0 ベースの物理層、LDM、送信機識別、リモコンの TV ボタン、無料放送の優先表示、補助アンテナ要件、対応 STB や送信設備の準備など、制度面と実装面の双方で導入準備が進んでいることが紹介されました。

(5) ARIB : Standardization Trends on Advanced ISDB-T

瀧口吉郎担当部長から、日本における高度地上デジタル放送の標準化動向について報告を行いました。

既存チャンネル内での高度化を図る ISDB-T1.5/2.0 と、新たな物理チャンネルを用いる ISDB-T3 の検討状況、ARIB STD-B79 及び STD-B80 の改定、高度 STL/TTL/TSL の検討、IP ベース番組制作関連規格の整備状況について説明しました。

(6) NHK : Latest topics of ISDB-T3

NHK 放送技術研究所主任研究員の朝倉慎吾氏から、ISDB-T3 の物理層に関する最新技術について報告がありました。

MISO(Alamouti 符号化)、送信局識別符号(TSIC)、PAPR 低減、オプション機能の同時使用、実運用に向けたプラクティスガイドラインなど、ISDB-T3 Version 1.1 において追加・整理された物理層機能が紹介されました。

(7) ETRI : Korea Status & Report

Principal researcher の Sung-ik Park 氏から、韓国における ATSC 3.0 関連研究について報告がありました。

モバイル受信性能、透明パッチアンテナを用いた受信評価、Broadcast Positioning System(BPS)、MIMO 多重化方式の評価などが紹介され、時間インタリーブや LDM の有効性が示されました。

(8) NERC-DTV : Next Generation Media Broadcast Updates

Director の Eric Xue 氏及び Yao 氏から、中国における次世代メディア放送サービスについて報告がありました。

NearLink / SparkLink と放送を組み合わせた双方向・個別化サービス、パーソナライズ広告、マルチビュー視聴、AI 生成コンテンツの重畳表示など、放送と近距離通信・AI を連携させたサービス例が紹介されました。

(9) 5G-MAG : Driving Standards for Connected Media Experiences

Javier Rodriguez Fernandez 氏から、5G Broadcast の標準化及び商用化見通しについて報告がありました。

3GPP Release 19 における時間・周波数インタリーブ、他方式との共存機能、5G-MAG による相互運用試験、将来の Android 端末への搭載ロードマップなどが紹介されました。

3. まとめ

今回の FoBTV 技術委員会では、各地域における次世代放送の取り組みが、規格検討段階から実装、制度整備、受信機普及の段階へ移行しつつあることが示されました。

欧州では放送と IP 配信の融合、米国では ATSC 3.0 への移行政策、ブラジルでは TV 3.0 の先行導入、日本では高度地上デジタル放送の技術及び標準化が進展しており、各地域の事情に応じた次世代放送への取り組みが進められております。

FoBTV は、こうした各国の動向を共有し、将来の放送サービスの方向性について議論する重要な国際連携の場として、今後も引き続き重要な役割を果たすものと考えられます。

ARIB 内会合(5月11日～5月15日)予定

予定している会合はありません。

国際会合(5月11日～5月15日)予定

5月12日(火)～13日(水) : 3GPP PCG(第56回)/OP(第55回)会合
(ソフィア・アンティポリス(フランス))

総務省などからのお知らせ

電波の発射を防止するために必要な措置を行うことが困難な場合に代えることができる措置を定める件(平成23年総務省告示第65号)の一部を改正する告示案に係る意見募集
—空間伝送型ワイヤレス電力伝送システムの廃局時等に実施する電波の発射を防止する措置に係る制度整備—
【令和8年4月24日発表】

総務省は、電波の発射を防止するために必要な措置を行うことが困難な場合に代えることができる措置を定める件(平成23年総務省告示第65号)の一部を改正する告示案について、令和8年4月25日(土)から同年5月29日(金)までの間、意見を募集しています。

詳細については [【令和8年4月24日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

電気通信事業法施行規則等の一部を改正する省令案（災害時用公衆電話の補填等に関する規定の整備）等に対する意見募集

【令和8年4月24日発表】

総務大臣は、令和8年4月24日（金）に、情報通信行政・郵政行政審議会（会長：相田 仁 東京大学 特命教授）に対し、電気通信事業法施行規則等の一部を改正する省令案について諮問を行いました。

本件に関して、令和8年4月25日（土）から同年5月29日（金）までの間、意見募集を行っています。

詳細については [【令和8年4月24日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

電話に関するユニバーサルサービス制度に基づく第一種適格電気通信事業者の指定に対する意見募集

【令和8年4月24日発表】

総務大臣は、令和8年4月24日（金）に、情報通信行政・郵政行政審議会（会長：相田 仁 東京大学特命教授）に対し、「第一種適格電気通信事業者の指定」について諮問を行いました。

つきましては、本指定について、令和8年4月25日（土）から同年5月29日（金）までの間、意見募集を行っています。

詳細については [【令和8年4月24日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

端末設備等規則の一部改正等に関する意見募集

【令和8年4月24日発表】

総務大臣は、令和8年4月24日（金）に、情報通信行政・郵政行政審議会（会長：相田 仁 東京大学特命教授）に対し「端末設備等規則の一部改正について」に関し、諮問を行いました。

当該省令案及び関連告示案について、令和8年4月25日（土）から同年5月29日（金）までの間、意見募集を行っています。

詳細については [【令和8年4月24日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

「電波有効利用委員会報告（案）」に対する意見募集
－ 「社会環境の変化に対応した電波有効利用の推進の在り方」 －

【令和 8 年 4 月 28 日発表】

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波有効利用委員会（主査：藤井 威生 電気通信大学先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター 教授）は、令和 7 年 3 月から、令和 7 年 2 月 3 日付け諮問第 30 号「社会環境の変化に対応した電波有効利用の推進の在り方」について検討を行ってきました。

この度、電波有効利用委員会報告（案）を取りまとめましたので、令和 8 年 4 月 29 日（水）から同年 6 月 2 日（火）までの間、意見を募集しています。

詳細については [【令和 8 年 4 月 28 日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

自動運転時代の“次世代の ITS 通信”研究会 第 3 期報告書（案）について
の意見募集

【令和 8 年 4 月 28 日発表】

総務省は、「自動運転時代の“次世代の ITS 通信”研究会（第 3 期）」を開催し、自動運転社会の本格的到来を見据えた通信インフラの在り方等について検討を行い、今般、第 3 期報告書（案）を取りまとめました。

本報告書（案）について、令和 8 年 4 月 29 日（水）から同年 6 月 2 日（火）までの間、意見募集を行っています。

詳細については [【令和 8 年 4 月 28 日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

令和 8 年に申請を受け付ける BS 放送に係る基幹放送局に関する免許
方針を定める訓令案等に関する意見募集

【令和 8 年 4 月 30 日発表】

総務省は、令和 8 年に申請を受け付ける、BS 放送に係る基幹放送局に関する免許方針を定める訓令案等について、令和 8 年 5 月 1 日（金）から同年 6 月 4 日（木）までの間、意見募集を行っています。

詳細については [【令和 8 年 4 月 30 日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

第 33 回電波技術協会セミナーの開催

一般財団法人電波技術協会は、2026 年度情報通信月間参加行事として、「電波が拓く未来の日本」をテーマに、第 33 回電波技術協会セミナーを下記の内容にて開催いたします。

記

テーマ：第 33 回電波技術協会セミナー「電波が拓く未来の日本」

- 1 開催日時：2026 年 6 月 5 日（金）13 時 30 分～17 時 00 分（13 時受付開始）
- 2 開催場所：千代田放送会館（東京都千代田区紀尾井町 1-1）
（交通）東京メトロ南北線永田町駅（9b 出口）、有楽町線麴町駅（1 番出口）が便利です。

3 演題、講演者

<講演Ⅰ>13 時 40 分～14 時 40 分

「放送政策の最新動向」

講師：総務省 大臣官房審議官 近藤 玲子 氏

<講演Ⅱ>14 時 50 分～15 時 50 分

「放送×ネット時代の公共メディアを支える技術」

講師：日本放送協会 理事・技師長 伊藤 寿浩 氏

<講演Ⅲ>16 時 00 分～17 時 00 分

「通信技術の最新動向及び KDDI の取組み」

講師：KDDI 株式会社 シニアディレクター コア技術統括本部
技術企画本部 副本部長 川西 直毅 氏

4 聴講定員：180 名(予定)

5 参加費：無料

6 申込方法：一般申込期間（5 月 8 日から 5 月 29 日）に、一般財団法人電波技術協会の HP (<https://reea.or.jp/>) の「セミナーのご案内」からお申込ください。

* 定員になり次第、申込終了とさせていただきます。予めご了承ください。

* 皆様のご参加を心よりお待ちしております。



Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

☎100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<https://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp